《新連載・9》 ＜臨時総代会を終えて＞

初心に還って、組合員・住民のための「ささえあい協同組合」を発展させよう

理事長　高見　優

私に対する役員解任請求議案は、先般の臨時総代会で反対多数で否決されました。今まで通り理事（長）として職務を行いますが、少なからぬ組合員・総代からの批判や要望について真摯に受け止め、課題を解決するため皆さんとささえあって進んで行きますので、宜しくお願いします。

1．新美南吉の童話の一つ「猿と蟹」を読んだことがあります。（うろ覚えですが紹介します。）

山奥に住む猿が、話に聞く広大な海を一度見てみたいと海岸にやってきた。

「すげー、デッカイなあ！」と感動のあまり声を挙げたところ、足元の岩の下から「プーッ」という音が聞こえた。「誰か居るのか、このデッカイ海は俺のものだ。せっかく一人で楽しんでいるのに邪魔するな！」と怒鳴ったら、また「プーッ」という呟きの声。「うるさい奴だなー」と、猿は岩陰に居た蟹を見つけ出し、石をつかんで打ち潰しました。「やっと静かになった。これでこの海は俺様だけのものだ！」と満足そうに大きく息を吸った。

猿はしばらく海を眺めていたが、やがて何だか寂しい気分になってきた。素晴らしい海に感動する自分の気持ちを誰かに伝えたい、一緒に味わいたいのに、海辺には誰一人いない。急に悲しくなった猿は、海を背にしてとぼとぼと歩き始め、山に帰って行きました……。

2．悲しみに 出会うたび ／ あの人を 思い出す
こんな時 そばにいて ／ 肩を抱いて ほしいと
なぐさめも 涙もいらないさ ／ 温もりが ほしいだけ
ひとはみな 一人では ／ 生きてゆけない ものだから

７０年代にヒットした中村雅俊の歌「ふれあい」の一節です（作詞：山川啓介、作曲：いずみたく）。この歌を、7月２５日に当生協「サロン・ド・笑天街」で開催された「旅するピカドン・ピアノコンサート」の冒頭、被爆ピアノの演奏活動のため新潟入りされた矢川光則さんのリクエストで、職員の石田雅史さん（笑天街管理人）が歌ってくれました。（同コンサートの模様は本誌の別頁に掲載）

「ひとはみな 一人では 生きてゆけない」～きっと矢川さんはこの歌に感じる何かがおありなのでしょう。私たちの世代はよく聴いた歌ですが、最近は若い人たちにも届いているようですね。

当生協の組合員グループ「SDGsを考え活動する会」（瀧澤ミチ子代表）は、ささえあい生協の3本柱「福祉・生きがい・仕事おこし」の一つ「生きがい」事業を担っています。前号の会報（９３号）に協同組合の役割・目的を紹介しましたが、この3本柱は一体として行なうことが重要です。それは SDGs17目標もすべて一体的に実現しようとするのと同じです。

ただ、誰も、どの事業所も、組合員も、すべてをやれるわけではないので、分担・分業してやりつつ、他の分野・活動について共有したり協力したりして、ささえあっていくことが大切です。

3．当生協の黒岩卓夫顧問から「一冊の本」という名の小冊子を送っていただきました（朝日新聞出版）。「人それぞれの老いと死」と題して、黒岩医師と小堀鴎一郎医師の対話が２号に分けて掲載されていました。（小堀さんは森鴎外の孫で、NHK・TVドキュメンタリー「人生をしまう時間」の看取りの場面＜臨終間近に家族を残し小堀医師はその家の庭にたたずむ＞が印象的でした。）

お二人とも同じ大学医学部を卒業され、それぞれ別の道を歩まれた後、奇しくも同じ在宅医療に従事されて再会することになったという。生と死に対する医師や医療の考え方への共通の疑問、そして市民・患者側の考えも成熟していないこと、さらには医師よりケアワーカーや家族、地域の力、そして宗教の教えにも触れておられます。

「死を生きた人びと」（小堀著・みすず書房）と「和解ある老いと死」（黒岩著・教育史料出版会）ほか多数の著書のあるお二人が、互いの著書から受けた感動と学びを披露しながら、「一人ひとりの物語」（人生）への興味を語り、話題は自らの生き方が変わる（変わった）ことにも及びます。

７０年代初頭に単身新潟に移住された黒岩さんと、同時期に同じく単身移住した私は、前記黒岩著に書かれていた「…在宅医療を続けていると、患者・家族・医師や看護婦が三つ巴となって、時には対立し、時には意気投合し、喜びや悲しみを分かち合い、そのゴールへと歩んでいく」というくだりが、身に沁みます。

先般の臨時総代会や理事会での激論を経て、三つ巴当事者を「利用者・役職員・総代組合員」と読み替えて、対立もし意気投合もしながら、ささえあって歩んでいきたいとの痛切な思いを胸の奥深く抱き続けたい、と思った次第です。

（ご質問・ご意見を本部事務局までお寄せください。）

●お知らせ／「若年認知症・介護家族のつどい」8月19日㈯13:30～16:00 新潟市総合福祉会館（参加費３００円／ 問合せ：090-5546-9409・等々力務）